

西国巡礼慈悲の道

西国第十八番 紫雲山

頂法寺(六角堂)

一期一会

貫主 池坊専永

私たちは、生きていく中でたくさんの方と出会いますが、この人との出会いを純粹に1回のみのお出来事であると考え、その出会いに最善を尽くし、大切にしたいということを一期一会といえます。

最近、人間同士の繋がり希薄さから、さまざまな事件や事故が起こっています。

家族でさえも、お互い傷つけ合い、その関係が崩れてきている世の中にあつて、今こそ人とのつながりを見

直し改善する時に来ていると思われまふ。

特に身内である家族の絆を大切にせねばなりません。初めて会う人との出会いは、当然、次に会えるかどうか分からないと考えまふ。しかし、たとえ家族であつて、毎日顔をあわせていたとしても、次に必ず会うことが出来る保証は何もないのです。

生活する中で色々なことがあり喧嘩をするときも有るでしょう。しかし、「もしかするとこれが最後かも

しれない。」と思うことによつて、仲直りもするし、分かり合えることもできるのです。

「後悔しない幸せな人生を送りたい。」と、誰しも願ひまふ。

人生はやり直しができません。後悔のない人生は難しいのですが、充実した一日一日の積み重ねの人生であるならば精一杯生きたことになりまふ。

観音様はいつも私たちの身近に居られ助けていただけまふ。それは全く見ず知らずの方になつて助けていただくこともありまふが、時には身近な存在である夫婦や子供であつたり、父母であつたり、兄弟であつたりまふ。

時と場合によつて姿を変えられ助けていただけまふ。人との出会いの中では、気に食わないと思つてしま

う人もいまふが、実はそれが観音様かもしれなひ。思ひ上がった自分を戒めてもらつてゐるのかもしれないと考へてみることも大切です。

一日一日が一期一会の繰り返しです。

せつかくの出会いを無駄にしてしまふことなく、大切な人生の時間をいがみ合ひに費やすより、懐を大きく持ち、絶えず感謝の念を持つて接することを心がけてさえいればきつと良い人生を送ることができまふ。

ダイヤは磨くことにより光を放ちまふ。人間は生まれたときは真っ白で清らかですが年を追う毎に欲によつて汚れてまひりまふ。

人との出会いにより、一瞬一瞬を大切に今を生き、心を磨きながら幸せな毎日を送つていただきたいと思ひまふ。

西国第十八番

紫雲山 六角堂頂法寺
ろっかくどうちようほうじ

御本尊／六臂如意輪観世音菩薩 開基／聖徳太子

わがおもう こころのうちは むつのかど

ただまろかれと いのるなりけり



観音風光

◆お寺から参拝者へのメッセージ

セージ

小野妹子（専務）は太子の教えに従い朝夕宝前に花を供え、代々の住職はこれを伝え、花の名手が輩出した。日本のいけばな発祥の地と呼ばれる所以である。池のほとりに住持の寺坊があったことから「池坊」と呼ばれる。

主な年中行事

一月一日	修正会
一月五日	初生け式
一月十八日	初観音
二月下旬	太子祭
四月八日	花まつり
四月中旬	池坊中央研修学院祭 <small>(華道展)</small>
六月三十日	道祖妹子祭
七月下旬	唐崎明神例祭
十一月中旬	旧七夕会
十二月十八日	しまい観音 <small>(池坊全国華道展・華道先哲物故者追悼法要)</small>

〒604-8134 京都市中京区六角通東洞院西入堂之前町248

TEL 075-221-2686

納経時間 午前8時～午後5時

(開門時間午前6時～午後5時)

仏教用語一口解説

不偷盗とは

「他人のものを盗んではならない。」という意味。他人の持っている物が妬ましく思う事は良い事ではありません。ましてや物を勝手に取ったり、盗み見や盗み聞きなどは決してしてはならない行為です。また、その行為は物だけでなく、そこに詰まっている持ち主の大切な気持ちをも盗むことになるのです。